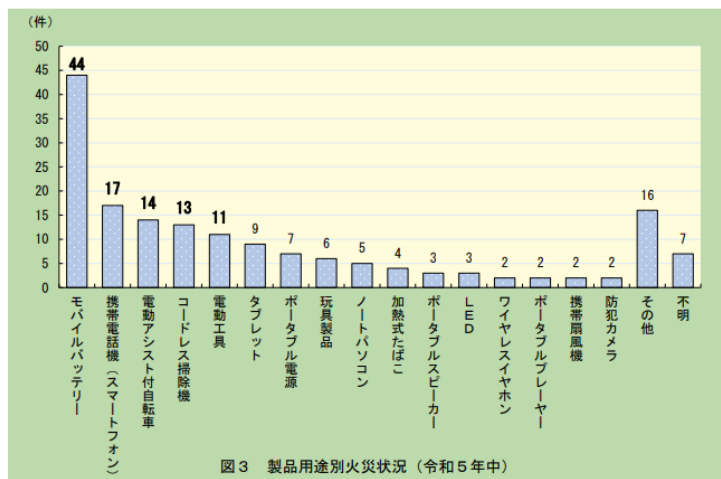


リチウムイオン電池からの火災が増えています

東京消防庁管内で令和５年中に発生した製品火災でリチウムイオン電池を搭載した製品から出火した火災は１６７件。さらに令和６年は６月末時点で１０７件と前年比３５．４％増加しています。



※ その他の内訳は、非接触型体温測定器、センサー式手指消毒器、CO₂濃度測定器、水素水生成器、掃除用電動ブラシ、ハンディターミナル、ビデオカメラ、カラオケマイク、電動ガラスホルダー、電気あんこ器、健康器具、ドローン用バッテリー、電動車いす、自動車用バッテリー、電気自動車、電気バイク各1件を含みます。

リチウムイオン電池は、大容量の電力を蓄えることが可能で、繰り返し充電して使用できる電池です。その便利さ故、スマートフォンやゲーム機器、電子タバコ、掃除機など、身の回りのあらゆる製品に内蔵されています。

このリチウムイオン電池、実は、衝撃を加えると発火するという性質があります。そのため、これを内蔵した製品を捨てる時、正しい方法で廃棄しないと大きな事故につながる可能性があります。実際、リサイクル工場で発火事故が発生した事例もあります。

【リチウムイオン電池の使用例】



【火災を防ぐために】

- 1 使用する前に説明書をよく確認する。
- 2 衝撃を与えないように取り扱い、むやみに分解しない。
- 3 製造事業者が指定する充電器やバッテリーを使用する。
- 4 充電する際は整理整頓された場所や不燃性のケースなどに入れて充電する。
- 5 充電器の接続部が合うからといって、充電電圧を確認せずに使用しない。
- 6 **膨張、充電できない、バッテリーの減りが早くなった、充電中に赤くなる**などの異常がある場合は使用をやめ、製造事業者や販売店に相談する。
- 7 製造事業者の問い合わせ先の記載がない製品や販売店や製造事業者の連絡先に電話がつかない製品もあるので、製品を購入する際には慎重に検討する。
- 8 熱のこもりやすい鞆の中などでの使用を控える。
- 9 万が一の被害に備えて不燃性のケースなどに収納する。
- 10 処分する際は、製品の取扱説明書をよく確認する。
- 11 **不用品を処分する際は、地域のごみ回収方法をよく確認**する。

【万が一発火した時には】

電池から煙や火花の飛び散っているときには近寄らず、火花が収まってから消火器や大量の水で消火するとともに119番通報してください。